

支えあういのちと愛

～千葉の会だより～

4月号 2022.4.1

発行：千葉骨髓バンク推進連絡会
〒267-0054 千葉市緑区大高町18-37 北村方
TEL/FAX 043-497-5083
<http://www.marow.or.jp/chiba/>

千葉県造血幹細胞移植推進協議会の報告

コロナで一昨年、昨年と書面開催となっていた千葉県造血幹細胞移植推進協議会が、3月22日(火)18時からZOOMで開催されました。この3年間で9人の委員の内4人が、また事務局(薬務課)も1人変わっていました。議事は、薬務課の「令和3年度(2021年度)事業実施状況」の説明から始まりました。この中で「熊谷知事の記者会見」及び「県民だより」で説明員の募集について触れてくれたことに感謝の意を表明しました。この効果もあり、21年度は9人の方に千葉の会で説明員研修を行い、資格を取っていただきました。続いて「令和4年度事業実施計画」の説明がありましたが、長年千葉の会が要望してきた「**千葉県による説明員養成講座を実施する**」旨の記載があり、心からお礼を述べると共に研修会での協力を申し出ました。次の議題で30分時間を頂き千葉の会から「21年度の活動実績と今後の課題」の演題で講演し、コロナ禍での21年度の千葉の会の活動報告と課題をグラフ、図で詳細に説明しました。また、まとめて協議会へ右表の7項目の要望を述べました。

(協議会委員 梅田正造)

千葉骨髓バンク推進連絡会の紹介	千葉県造血幹細胞移植推進協議会(22.3.22 ZOOM)での要望
<p>21年度の総括</p> <p>2020年の年明けから日本中に蔓延したコロナウイルスは、2021年度も収まらず第4波、第5波と続き、2022年3月にはオミクロン株の第6波が猛威を奮いました。2021年度、千葉県では4月20日から5月11日の間、5市にまん延防止等重点措置が発令され、段階的に対象地域(圏内12市)と期間延長を重ね、6月2日に緊急事態宣言に格上げされました。宣言解除は10月1日になりました。一時立ち止まっていたものの11月2日に重点措置が解除で21年度の解除まで済みました。21年度は多数の行事が中止、延期、ZOOM開催になりました。</p> <p>◆中止、延期になった行事</p> <p>①骨髓バンクチャリティコンサートと落語会 ②東京マラソンでの支援活動 ③箱根駅伝での普及啓発 ④野田栗まつりで七夕での普及啓発と説明会 ⑤幕張メッセ「東京オートサロン」「フリーマーケット」での普及啓発と献血併行登録会 ⑥いのちの輝き展の三者会</p> <p>◆ZOOM開催</p> <p>⑦千葉県造血幹細胞移植推進協議会</p> <p>◆長年の要望事項「説明員募集」に対して熊谷知事から定例記者会見、「ちば県民だより」で支援があった。9名の方にドナー説明員研修会を実施した。</p> <p>◆ドナー助成制度導入は2市のみだった。54市町村中49市町が導入済みとなり、導入率91%。</p> <p>◆ドナー体験制度導入は、首長、県市町議会議員に支援を要請した。</p> <p>◆11月13日(土)、14日(日)、代々木公園でスーパーステック(東京雪祭)登録会を開催4団体と共催した。登録者121名、献血者402名だった。</p> <p>◆ケア制作は、日赤赤十字団の方々の支援を受け順調、10病院へ580名寄贈した。</p> <p>◆献血併行登録会の年間回数は1235回→332回→369回と増加していたが、コロナで昨年161回と激減した。21年度は8月までも196回と戻っていない。</p>	<p>21年度は、前年度に続きコロナ禍のため多数の行事が中止や延期、ZOOM開催になりました。また献血併行登録会も激減したままで、特に力を入れている若年層ドナー募集(大学生での開催)も戻りません。コロナが落ち着いたら活動復活に全面的なご支援をお願いします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 県内のドナー助成制度未導入の5市町に引き続き導入を要請していただきたい。 ドナー体験制度導入について県内経済関係団体へ改めて働きかけをお願いします。 ドナー一定年者が毎年2万人/年 いる対策として、献血併行登録会を多数開催しているが、説明員手配に苦慮している。21年度は熊谷知事が「県民だより」と「記者会見」で説明員募集希望者の呼びかけいただき、効果があった。21年度も呼びかけいただきたい。 千葉の会が説明員研修会(21年度9名)を実施しているが、講師の高齢化が進んでいることから薬務課で研修会開催をお願いしたい。 薬務課所管に「千葉県造血幹細胞移植推進協議会」があるが、委員に「ドナー登録推進」の協力要請をしていただきたい。 献血併行登録会の改善について引き続きフォローしていただきたい。 <ol style="list-style-type: none"> 登録会場の効率運用と改善 <ul style="list-style-type: none"> ①コストパフォーマンスの高い会場での、効率の良い開催 ②若い献血者が多い献血会場での登録会開催 ③新たな大学、ショッピングセンターの開拓 ②献血時の登録会開催の声掛けの徹底 コロナで2年連続で中止した「骨髓バンクチャリティコンサートと落語会」は、今年は⁵⁹11月26日(土)に茨城市文化芸術センターで行うべく計画している。広報で支援願いたい。

日本骨髓バンク「地区普及広報委員・説明員研修会」に参加して

2月22日(火)13時から「日本骨髓バンク 令和3年度 地区普及広報委員・説明員研修会」のZOOM配信があり受講しました。私は1995年にドナーとして骨髄移植推進財団(当時)で骨髄液を提供した後、同財団から2000年に説明員資格を、2005年に地区普及広報委員資格を取得しました。以来毎年東京や地方で開催される関東甲信越地区の「地区普及広報委員・説明員研修会」に参加してきました。しかしコロナ禍のため昨年と今年は、ZOOM開催となりました。ZOOMは、移動時間がかからず配信されている期間の都合の良い日時に受講でき、必要なら何回も確認できるメリットがあります。一方会場での開催は、多数の受講者の交通費や一部の方は宿泊になることから費用もかなり掛かりますが、普段は会えない他都県の方たちと年に一回集い、他地区の参考となる活動状況を直接伺え、多くの方と親交を深められる**絶好の機会**となります。お陰で財団が開催する年一回の全国大会とも相まって、全国に力強い旧知のボランティア仲間多数できました。研修会の内容、資料については代わり映えがしないとの批判を耳にすることがありますが、私にとっては**骨髄バンクを創ろう**として活動を始め、やっとなってきた財団と共に自ら進歩してきたことも有り、毎年逐次追加更新されるデータや財団の動向が確認でき、年一回新たに自分の知識を見直すきっかけとなる良い内容、資料と思います。

さて今回の研修会ですが、13時に広報渉外部の鈴木慶太さんの進行で始まり、まず小寺良尚理事長と小川みどり事務局長の挨拶があり、続いて関由夏地区調整部長から「患者さんとそのご家族からの感謝の手紙の紹介」が3通ありました。特に「・・・コーディネーターさんが移植時に目に見えている人だけでなく、何百人もの人が動いているとおっしゃっていました・・・」、「・・・これからは無理せず、無茶せず、諦めずをモットーにして行きたい・・・」という言葉が心に残りました。その後小島勝広報渉外部長から「骨髄バンクの現状」の説明がありました。最近5年の登録活動の結果18～22歳のドナー登録者数が大幅に増えていることが印象的でした。今後も若年層を軸としたドナー登録の拡大に邁進したいと思います。

続いて中尾るかドナーコーディネーター部長の「ドナーコーディネーターの現状」説明がありました。コロナ禍で2020年度は、前年に比べコーディネーター件数が1,107件と1割減りましたが、ドナーに対する感染予防対策を取った結果2021年度は平年並みに回復したとのことです。添付図のように「コロナ理由のご辞退の例」は色々あったようですが、気持ちがなかったというのではなく苦渋の選択をされたと判断されているとおっしゃっていました。続いて鈴木さんから「ドナー登録会の運営と実施」の説明後、広報渉外部の末岡弘光さんから「登録会場での円滑な説明業務の実施について」、「クレームになる事例」と「クレームになった事例」の紹介と対応策について説明がありました。クレームについては日赤さんから指摘された事項をまとめたもので、なるほどと云う点もありません。ただ私は多くの献血併行登録会会場で逆に説明員をされている方から日赤さんに対するクレームも結構聞いています。一方通行ではなくこれについてもまとめられ、日赤さんに連絡していただきたいと思えます。登録会はドナー登録希望者、日赤さん、説明員が共に関わって開催されます。人が関わることで何事もコミュニケーションを十分にを行い、相手の立場に立って行動することによって、初めて気持ちよく登録会は運営されると思えます。

引き続き神奈川の会の村上忠雄会長(協議会副理事長)から「神奈川県における骨髄ドナー登録について」講演がありました。「課題・悩み」「その対応」「関係団体との協力、連携による骨髄ドナー登録の推進、説明員養成講座」「献血併行型ドナー登録の流れ」についての詳細説明がありました。神奈川の会とは協議会の関東甲信越地区ブロックセミナーで毎年勉強会を開いていますが、資料よっての説明で新たに参考になる点も見つかり、大いに有意義でした。

最後に財団連絡事項が広報渉外部の小畑さんからあって2時間ちょっとの研修会は閉会となりました。(会長 梅田正造)

コロナ理由のご辞退の例

- 感染のリスクから、コーディネーターのために病院へ行くのが不安
- 仕事柄、感染リスクのある病院に行くことは難しい(保育の仕事など)
- 同居家族にお年寄りがいるので、ためらいがある
- 妻の父から「コロナのリスクがある中、家族のことを大事に考えて」と反対された
- コロナの影響で仕事が忙しくなり、時間が作れない
- 自分自身がコロナ対応をしている保健師。抜けると困る、と、言われた



登録会報告

袖ヶ浦市長浦公民館 2月7日(月) 説明員 円東克典

登録者1名 説明者1名の結果でした。献血者は午前中、予約を含め多かったですが、午後はさっぱりで、部屋に献血に来る人が誰もいない状態が結構ありました。そもそも公民館を訪れる人が少ないです。日赤受付の方がドナー登録該当年齢と思われる方々に声掛けして下さい、ありがたかったです。



津田沼献血ルーム 2月15日(火) 説明員 西島隆史、西島一恵

登録者7名 説明者0名の結果でした。久しぶりのルームは若い献血者がたくさんいて驚きました。いつも農村地域の登録会では、高齢者の方が多く、登録年齢の方になかなか出会えなかったため、嬉しかったです。

手順も献血バスに慣れていたので、ルームに慣れるまで手間取りました。何から何まで違っていたので。(西島一恵)



一宮町保健センター 3月23日(水) 説明員 北村美和子

登録者3名 説明者1名の結果でした。献血は混みあうことなく、進められていました。年齢高めの方が多い中、受付での声掛けもいただき感謝です。1名は献血後に説明を聞きたいとバンクテーブルに来られ、登録してくださいました。前から骨髄バンク登録の事が気になっていたとの事でした。小さなお子様を連れておられる中、もう一度医師の問診、採血と進んでいただき、ありがたく思いました。



イオンモール幕張新都心 3月27日(日) 説明員 荻原匡祐、熊谷栄枝、前田昌宏

登録者7名 説明者2名の結果でした。午前中は献血予約者中心で実質有効時間も1時間強でやや肩透かしの感じでしたが、午後になると献血受付待ち人数も増え、骨髄バンク説明希望者も増えました。また日赤受付の方もバンクテーブルへ案内いただけるなどフォローがあり有難かったです。今回は研修後実質初めての登録会現場で緊張もし、記載の不備や案内の不手際など冷や汗もの一日でした。しかし先輩お二人のご指導で何とか自身での説明後、登録もしていただき、貴重な経験となりました。本日は説明だけという方もいつか登録だけそんな感触もあり有意義な体験でした。(前田昌宏)



登録会報告(会場)	2月	登録者数(人)	説明受講者(人)	献血者数(人)	説明員
袖ヶ浦市長浦公民館	7日(月)	1	1	30	円東克典
モルニルちば駅献血ルーム	7日(火)	9	2	85	北村美和子
松戸献血ルーム	9日(水)	3	1	41	柴谷みち子
柏献血ルーム	14日(月)	5	5	64	柴谷みち子
銚子市勤労コミュニティセンター	15日(火)	1	1	72	久永幸子
津田沼献血ルーム	15日(火)	7	2	71	西島隆史 西島一恵
芝山町役場南庁舎	16日(水)	0	0	49	山口智子
習志野市役所	18日(金)	1	2	62	山本栄
南房総市丸山公民館	18日(金)	0	0	21	西島隆史 西島一恵
三芳農村環境改善センター	18日(金)	2	0	24	西島隆史 西島一恵
八街市役所	21日(月)	2	2	27	久永幸子
野田市関宿保健センター	24日(木)	2	1	47	熊谷栄枝
酒々井保健センター	24日(木)	0	0	31	山本栄
献血ルームフェイス	24日(木)	6	0	63	北村美和子
いすみ大原保健センター	25日(金)	1	1	80	西島隆史 西島一恵
2月 合計		40	18	767	

登録会報告(会場)	3月	登録者数(人)	説明受講者(人)	献血者数(人)	説明員
柏市沼南保健センター	1日(火)	3	2	42	柴谷みち子
袖ヶ浦市保健センター	1日(火)	0	1	85	円東克典
陸沢町農村環境改善センター	1日(火)	0	1	47	久永幸子
君津市保健福祉センター	7日(月)	8	4	61	西島隆史 西島一恵
モルニルちば駅献血ルーム	7日(月)	7	1	83	久永幸子
館南町保健福祉総合センター	11日(金)	1	1	28	西島隆史 西島一恵
千葉大学病院	16日(水)	3	0	44	志田和子
市原市役所	17日(木)	1	2	55	西島隆史 西島一恵
献血ルームフェイス	17日(木)	3	2	69	北村美和子
柏献血ルーム	18日(金)	3	4	59	柴谷みち子
イオンタウンニューカリが丘	20日(日)	1	3	79	山本栄
白井市役所	22日(火)	2	0	52	山口智子
富里市役所	22日(火)	1	1	33	久永幸子
長生保健センター	23日(水)	1	1	26	西島隆史 西島一恵
一宮町保健センター	23日(水)	3	1	42	北村美和子
松戸献血ルーム	23日(水)	4	4	48	柴谷みち子
南房総市役所	24日(木)	2	1	53	円東克典
富津市役所	25日(金)	3	3	94	西島隆史 西島一恵
津田沼献血ルーム	25日(金)	2	4	82	山本栄
イオンタウン木更津朝日	26日(土)	0	0	43	西島隆史 西島一恵
イオンモール幕張新都心	27日(日)	7	2	63	荻原匡祐 熊谷栄枝
船橋市役所	28日(月)	4	0	42	山口智子
九十九里町保健センター	28日(月)	2	0	34	久永幸子
流山市役所	29日(火)	4	2	48	柴谷みち子
旭市保健センター	29日(火)	3	3	52	北村美和子
千葉市役所	30日(水)	1	0	28	志田和子 内田昌臣
松戸市中央保健福祉センター	31日(木)	3	0	31	柴谷みち子
千葉県庁	31日(金)	0	0	18	円東克典
3月 合計		72	43	1,441	

関東甲信越地区ブロックセミナーの報告

3月20日(日)、関東甲信越地区ブロックセミナーをZOOMで開催しました。千葉の会8名、埼玉の会4名、神奈川の会2名、東京の会1名、新潟の会1名の5団体16名と全国協議会事務局から2名の総計18名が参加し、「コロナ禍を乗り越えるために」というテーマの元、各地のコロナ禍での登録会活動を中心に活発な意見交換をしました。私からはセミナー開催の世話役理事として、ブロックセミナーの主旨、全国協議会加盟団体の推移・課題、会費変更、医療講演会開催支援について説明し、千葉の会の立場からは19、20、21年度の登録会結果とコロナの影響を説明しました。各団体とも登録状況を報告しましたが、他に東京の会は説明員不足について、埼玉の会は「患者・家族交流会」の報告、神奈川の会は16大学へのアプローチ、新潟の会は地道な登録会推進の報告をしました。若木副理事長からは、クラウドファンディングの説明がありました。(セミナー世話役 梅田正造)



クラウドファンディング ネクストゴール目標1千万円達成

全国骨髄バンク推進連絡協議会は、佐藤さち子基金を継続させるためのクラウドファンディングを2月14日(月)に公開しましたが、300万円の目標を、何と6日間で達成することができました！ 予想をはるかに超えるご支援に、驚くと共に心から感謝申し上げます！

またご寄付と同時に、熱い応援メッセージも多数いただいております、骨髄移植を必要とする患者さんへの熱いエールが全国の仲間から、また一般の方々からも届き続けました。そこで、ネクストゴールとして、1,000万円の目標を設定しました。

佐藤さち子基金は、この10年来、箱根駅伝でのぼりを立てる患者さん応援行動に対し、参加社員1人1万円の寄付をプルデンシャル生命様より支援いただき、毎年350万円以上の積み増しで基金運営をしてきました。ところが新型コロナウイルス感染拡大で箱根駅伝沿道での応援自粛要請のため、この2年間寄付が途絶え、基金が枯渇状態となりました。ネクストゴールの1,000万円が達成できれば、今後約2年間は患者さんへの助成が可能となります。まさにコロナ禍で生活が苦しい移植患者さんへ手を差し伸べる事ができます。

東京三鷹で初の「あやちゃんの贈り物展」会場で、あやちゃんの絵と出逢い感動した佐藤さち子さんが、死の間際に骨髄移植患者さんへ役立ててと云って寄付してくださいました事を忘れることなく、東京の会から全国協議会へ引き継ぎ佐藤さち子基金の運営をしています。

クラウドファンディングの締め切りは、3月31日(木)23時でした。22時30分には950万円位でしたが、23時前に何と目標を超え、最終的に10,101,232円になりました。皆様の熱意、真心に心から御礼申し上げます。

(全国骨髄バンク推進連絡協議会)

最新医療情報 ～難治性の急性リンパ性白血病に対する標的抗原特異的治療法～

難治性の急性リンパ性白血病に対する治療法については、今まで個々の薬剤の紹介をしましたが、まとめた記事が「白血病と言われたら」(全国骨髄バンク推進連絡協議会発行)の中にありました。東大医科研附属病院 血液内科 准教授 高橋聡先生の記事の概要を紹介します。

急性リンパ性白血病の中で、フィラデルフィア染色体が陽性のタイプは従来から非常に治療が難しいことが知られていましたが、近年、チロシンキナーゼ阻害剤(グリベック等)が開発され、化学療法と併用することにより、寛解維持期間が長くなり、また、造血細胞移植を積極的に併用することにより、大きくその予後は改善できています。

一方で、フィラデルフィア染色体陽性以外では、長年大きな改善が得られず、特に化学療法の効果が認められない再発・難治例では、移植成績も不良で、その予後は厳しいものでした。近年、Bリンパ球の表面に発現しているCD19やCD22などの抗原を標的にした治療法が開発され、再発・難治例に対しても高い寛解導入率を示しており、期待されています。(成人の急性リンパ性白血病では約75%がBリンパ球系です)

1. イノツズマブ オゾガマイシン(ベスポンサ)

本剤は抗体-薬物の複合体で、オゾガマイシンという細胞内に入ると細胞を殺してしまう薬物がCD22に対する抗体と結合した状態で投与され、標的とする白血病細胞のCD22抗原に結びついて細胞内に取り込まれ、抗腫瘍効果を発揮します。CD22を発現している再発・難治例に対する臨床試験で、通常化学療法に比べ、明らかに良好な成績を得たため、わが国でも既に使用できるようになりました。ただし、この治療法だけでは治癒が得られる可能性は高くないので、寛解後早い時期に同種移植を行うなどの治療戦略が必要となります。副作用の対応も必要になります。

2. プリナツモマブ(ビーリンサイト)

本剤は、B細胞性腫瘍細胞に発現するCD19と、エフェクターT細胞の表面に発現するCD3抗原に結合する二重特異性抗体からなる新しいがん免疫治療薬です。この抗体によりB細胞上のCD19とT細胞上のCD3が結合し、T細胞を腫瘍細胞に誘導して抗腫瘍効果を発揮させると同時に、T細胞の活性化と増殖が生じて、免疫の力で腫瘍を減少させることができます。再発または難治性に対する臨床試験では、通常化学療法に比べて、寛解期間が数か月延びることが証明され、劇的変化ではありませんが、寛解後に同種移植の予定が可能になるなどにより治癒率の向上に寄与するものと考えられています。

3. キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞(CAR-T)

本治療法は先に紹介しましたので、本誌では省略します。

いずれの治療法も同種移植と組み合わせることによって、これまで極めて難しかった症例の治療成績向上が期待され、臨床経験の蓄積が重要となっています。

以上が記事概要の紹介ですが、経験が蓄積され成績がさらに向上すると良いですね。(溝口理文)

新会員自己紹介 ～内田正臣(うちだ まさおみ)～

初めまして。ドナー登録説明員を拝命いたしました。経歴…S51年生まれ。千葉市稲毛区緑町出身。H11年駒澤大学法学部法律学科卒業⇒JA千葉みらい入職。共済の事務・営業など担当⇒20代後半、介護に魅力を感じ、特に居宅ケアマネジャーになりたくなり、花見川区の有料老人ホームや山武市の特別養護老人ホームで介護職⇒H25年地方独立行政法人さんむ医療センターにケアマネジャーとして入職。結婚を機に、山武市姫島在住です。

免許…第2種大型自動車免許、第2種普通自動車免許、フォークリフト免許、1級小型船舶操縦士、小型船舶操縦士

H28年頃ドナー登録し、未だ適合なく、他にできる事は無いか調べて登録説明員の事を知りました。その時、こういう重要職は骨髄バンク職員の方々を担当するものと思っていたので驚きました。同時に説明員として活動させていただける事は、多くの貴重な経験が積めて、大変光栄な事と感じています。1月30日(日)にイオンモール幕張新都心で説明員デビューしました。登録していただける方がおられる度にとっても嬉しく、やりがいがありました。若い方が登録された時は「立派だなあ」と驚きました。今後もスケジュールが合う限り登録会に参加したいです。また、登録会場は1度も行った事のない場所が多く、いろいろな場所に行ける良い機会が与えられるのもとても面白いポイントだと考えています。ご迷惑をおかけしないよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



日本骨髄バンクと千葉県登録者数最新情報 (2022年2月末現在)

	全国 (累計)	対前号増減数	対前年増減数	千葉県 (累計)	対前号増減数	対前年増減数
ドナー登録者数	538,181	-437	+7,855	18,659	+11	+498
累計患者登録者数	63,749	+405	+2,552	2,443	+17	+91
累計移植例数	26,382	+161	+1,166	835	+4	+33

ちょっといい漢字の話 (第11話) 医療にまつわる漢字 ～くさかんむりに楽しいで薬?～

今回は疫病・災厄の象徴である鬼の字のお話でしたので、今回は鬼退治のため医療にまつわる漢字を取り上げます。医は匚(けい、隠された場所の意)に悪霊を祓う力のある矢を置く形です。もとの字は醫で、毆(えい)と酉から成ります。矢はうつという意味で、毆は呪力のある矢を使って密室で大きな声で矢をうつ形です。病気は、悪霊のしわざであり、悪霊をうつことで病気がなおると考えたのです。下の酉は、酒樽の形です。酒は、傷口を清めたり、興奮剤として使われたりしました。疾病の疾は、人の脇腹に矢の刺さる形で、矢の傷をいいます。疒により床(牀)のうえに人が病気で寝ている形で、病気の意味です。病はもともとは病気の重いことを意味しました。矢傷は悪化が急なことから、急疾・疾風などはやい、はげしいの意味に用いられます。

医療の療は、もとは瘰と書きます。楽(樂)は巫女が柄のついた手鈴を持つ形で、瘰は神がかりとなった巫女が病魔を祓う形からいやす・なおすの意味です。この瘰の意に由来して病をいやす艸(くさ)＝薬になったと考えられます。一方、神楽舞などの歌舞音曲は人を楽しませることから楽しむが主な意味になりました。お酒を飲むのは楽しいですが、薬を毎日飲むのは面倒です。

私は薬箱に古代文字を貼って楽しい気分になっています。皆さんも古代文字に興味を持たれたら、末尾のホームページを訪ねてみてはいかがでしょうか。試しに、我が千葉県骨髄バンク推進連絡会を古代文字(篆文)にすると大変立派になりました(バンクは万葉仮名風に婆爾久としました)。色々な字で試してみてください。

～参考 常用字解(白川静、平凡社)、漢字のなりたち[日英対訳](白川静、平凡社)

「白川フォント」 ©立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所

<https://www.dl.is.ritsumei.ac.jp/Shirakawa/search/index.php#home>

(漢字教育士 萩原匡祐)

漢字教育士 萩原匡祐

薬箱に貼った古代文字

古代文字



今後(4、5月)の予定(お知らせ)

ドナー登録会

- 千葉県庁 4月4日(月)～5日(火)
- 順天堂大学さくら 4月7日(木)
- 千葉大学 4月11日(月)～15日(金)
- モノレールちば駅献血ルーム 4月11日(月)
- 鴨川市役所 4月12日(火) 午前
- 鴨川市ふれあいセンター 4月12日(火) 午後
- 松戸献血ルーム 4月13日(水)
- 大網白里市保健文化センター 4月14日(木)
- 大多喜町役場 4月14日(水)
- 献血ルームフェイス 4月18日(月)
- 麗澤大学 4月20日(水)
- 市川市役所第1庁舎 4月20日(水)
- 成田市役所 4月21日(木)～22日(金)
- 柏献血ルーム 4月25日(月)
- 中央学院大学 4月26日(火)～27日(水)
- 津田沼献血ルーム 4月26日(火)

定例会、総会

日時 5月8日(日) 定例会 13:00～、総会 14:30～
場所 船橋市勤労市民センター 第3会議室

白血病フリーダイヤルからのお知らせ

まん延防止等重点措置が解除されましたので、4月9日(土)より、白血病フリーダイヤルを再開いたします。長らくご迷惑をおかけいたしました。

無料電話相談 白血病フリーダイヤル

0120-81-5929

当面 第2・4土曜日開催 10:00～16:00
専門医も対応いたします。

(認定NPO法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会)

ここからのご寄付、ありがとうございます。
匿名 20,000円

<編集後記>

コロナオミクロン株への「まん延防止等重点措置」が3月21日で解除になりましたが、未だ収束の目途がたっていないため22年度の活動がコロナ以前に何時戻るのか、11月のチャリコンは??と思う日々です。大学の献血併行登録会報告が戻って来ていることは嬉しい事のひとつです。とにかく早く定例会後の餃子とビールが恋しい。(無料餃子の数が増えるよ)

柴谷みち子

